



京セラ株式会社

〒612-8501  
京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地  
tel.075-604-3500  
http://www.kyocera.co.jp



地球環境保全のための、ソーラー発電システムやコジェネレーションなどの省エネルギーを考慮した最新設備を整えた本社ビル

人類、社会の進歩発展に貢献する。同時に、全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、

京セラ株式会社は、ファインセラミック部品をはじめ半導体部品、ファインセラミック技術応用品、電子部品、光学精密機器、通信機器、情報機器などの部品からコンシューマー商品の製造・販売を手がけています。また、創業以来、環境に配慮した活動を展開しており、1990年に「京セラグリーン委員会」を設置するとともに、1991年には環境の行動指針である「京セラ環境憲章」を表明しています。そこで、環境企業の先駆的存在としても知られる同社に訪問して、環境への取り組みについてお話をうかがいました。

ISO14001認証取得と効果

第一段階として、1996年10月「三重工場」で同社初のISOの認証取得を行い、翌1997年9月に国内の全生産拠点の10事業所で認証取得を完了。その後、当初から希望していた京セラ全社での認証取得を実現するため、第二段階として、本社をはじめ事務・営業や研究・開発部門を含めた6事業所を1つのシステムで運用する「全社環境管理システム」として認証取得し、全社統合の土台を確立しています。第三段階として、1999年8月に新たに26営業所・直営店を加え、当初からの希望であった「全社統合環境管理システム」として42拠点を一括で認証取得を実現。さらに、2000年11月には、このシステムに同社の関連会社を含め「京セラグループ全社統合環境管理システム」として認証範囲の拡大を行っています。

このように、ISO規格に適合した環境マネジメントシステムを構築し、京セラグループ全社統合システムとして運用することで、人的資源・資本・技術などを各事業所単位でなく、全社の環境負荷に応じた最適な配分が可能となり、全社的な環境活動や環境管理レベルの向上が効率的に図られています。

また、産業廃棄物削減や省エネなど、全社的なプロジェクトとして取り組み大きな効果をあげているようです。

ターゲットを定め環境保護活動を展開

1992年より具体的な環境保護活動として3年毎に策定する「京セラ環境保護推進計画」を展開し、現在は1999～2001年の3年間を活動期間とする「第3次環

境保護推進計画」に取り組んでいます。例えば、各事業所では、生産活動に伴う産業廃棄物削減や省エネ・省資源の具体的な活動目標を定め環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。また、事務部門でも身近な活動として執務フロアの昼食・退出時の消灯や空調温度設定をこまめに管理するなどの対応を、具体的な数値管理のもとで行っています。

環境負荷低減商品の研究・開発

地球環境保護に貢献するため「地球環境商品認定基準」を定め、この基準を満たした商品は「京セラエコラベル」を付記しています。そうした商品として、耐久性に優れたアモルファスシリコンドラムを用いることでノンカートリッジ方式を実現し、カートリッジ交換による廃棄物の発生を抑制するとともに、樹脂製部品と金属製部品とが容易に分解できる構造や省電力機能などの環境配慮に優れた「エコシスプリンタ」があります。

これ以外にも、同社は早くからクリーンなエネルギー源として知られる太陽エネルギー利用の技術開発に力を入れており、ソーラー発電システムや太陽熱温水器などを製品化しています。また、工場や自動車から排出される排気ガス中の有害成分の除去を行うハニカムフィルムや揮発した溶剤などの回収を行うガス分離膜モジュールなど、環境に配慮した製品の積極的な研究・開発及び商品化をしています。



地球環境商品のひとつ  
ソーラー発電一体式給湯システム  
「京セラ デュアルソーラー」

社会貢献・地域貢献活動

経営理念のもと社会や地域への貢献活動として、環境関連の研究開発を積極的に行っている団体やNGOなどに対して援助を行い、環境保護技術の進歩発展に貢献しています。また、身近な地域貢献活動として、各事業所では、行政、自治体が主催する環境美化活動などに協力するとともに、率先して事業所周辺の清掃活動を実施しています。

取材を終えて...

京都教育大学 黒木浩平

お話を伺って、京セラさんは企業としての理念を重んじ、社員全員が異体同心でそれを合理的に実践している会社だなと感じました。特に環境対策については「京都セラミック」としての創業時(1959年)から取り組んでこられた、というのは本当に驚きでした。



今回の取材を通して、企業が社会の公器としての使命をしっかり認識し、色々な形で実践していくことの大切さを実感しました。

[ 環境データ ]

1990年 12月  
「京セラグリーン委員会」設置  
1991年 10月  
環境の行動指針である「京セラ環境憲章」表明

京セラグリーン委員会

京セラグリーン委員会	
環境保全部会	環境対策小委員会 化学物質対策小委員会
省エネ部会	省エネ対策小委員会 温暖化防止対策小委員会
省資源部会	省資源対策小委員会 紙資源対策小委員会 梱包材料対策小委員会
地球環境商品部会	商品検討小委員会 L.C.A検討小委員会

京セラ関連会社グリーン委員会

KII地域統括会社 環境委員会	各社 環境委員会
AVX地域統括会社 環境委員会	各社 環境委員会
KEO地域統括会社 環境委員会	各社 環境委員会
Asia地域統括会社 環境委員会	各社 環境委員会
KEC地域統括会社 環境委員会	各社 環境委員会

京セラ環境憲章

地球環境問題に対する姿勢を明確にし、また行動基準とするために制定されたものです。

方針

1. 地球環境保護を最優先とした社内環境基準の遵守
2. 資源の有効活用とプロセス技術の革新
3. 環境保護貢献商品と環境負荷低減商品の積極的な開発
4. 環境対策への協力と社会的貢献活動への参画・支援